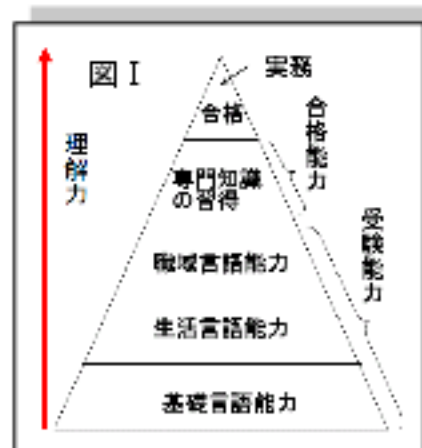


受験学習で実務能力を 身につける方法！！

- 今回は全国の施設から寄せられた声の中で、特に「悩みの声」として多かった問題を取り上げて、その原因を解明します。「悩みの声」としては「国家試験受験に対して、多大な時間と経費を費やしているのに、合格しても介護士としての実務能力がなく、再教育をしなければならない状態がある」という問題が多数あります。この問題が起こる原因は、外国人受け入れに対する考え方に起因しています。図Ⅰをみて分かるように、外国人の場合は、言語能力がないために段階を経て徐々に「意思疎通を図れる言語能力を養うこと」が、とても重要な要因となります。
- しかしながら、この現実を無視して、全国の受け入れ施設の大半が直接に、国家試験対策で専門領域の学習を中心とした日本語教育を行っていることは、【小学生に対して、専門学校の教育をしているのと全く同じ状態】を作り出しているといえます。この状態を作り出さずに、国家試験合格を達成させるためには、以下の方法をとることが絶対必要で、と同時に、合格後の即戦力として実務が遂行できる能力を養うことも、学習目的の中に持つべきです。



図Ⅱ「学習段階表」

合格基準	段階	技能の種類
専門学校卒の 基礎能力	※ 国家試験に必要となる合格力と基礎力を養う ◎ 国家試験に必要となる「文法知識」と「読解力」 に对应できる学習をさせる。	★ 1技能 ・聴解能力 ・文法知識 ・読解力など
専門学校2年の 基礎能力	※ 専門知識の活用能力を養う ◎ 国家試験に必要となる「漢字・専門用語」(漢字・熟語)と「文法知識」に对应できる学習をさせる。	★ 4技能 ・聴解能力 ・読解能力 ・漢字・熟語 ・文法知識など
専門学校1年の 基礎能力	※ 専門知識の活用能力を養う ◎ 国家試験に必要となる「聴解力」 (聴解力・文法知識)に对应できる学習をさせる。	★ 2技能 ・聴解能力 ・文法知識など
高校3年の 基礎能力	※ 専門知識の活用能力を養う ◎ 聴解・読解の基礎知識を基に具体的な事例で 学習をさせる。	★ 4技能 ・聴解能力 ・読解能力 ・文法知識など
高校1年の 基礎能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身に付く学習をさせる。	★ 1技能 ・文法知識 ・読解力など
中学校2年の 基礎能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自習力が身に付く学習をさせる。	★ 11技能 ・聴解力 ・読解力など
小学校6年の 基礎能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自習力が身に付く学習をさせる。	★ 11技能 ・聴解能力 ・文法知識 ・読解力など
小学校4年の 基礎能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な知識 とその使い分け」ができる能力を中心として 学習をさせる。	★ 11技能 ・聴解能力 ・読解能力 ・文法知識 ・漢字・熟語の使い分けなど
小学校3年の 基礎能力	・構文力・読解力・文法(ひらがな・カタカナ・ 漢字)・聴解・読解の使い分けなど。	★ 11技能 ・聴解能力 ・読解能力 ・文法知識 ・漢字・熟語
受験者の現在の日本語能力を調べる。		

合格

職域言語能力を養う

生活言語能力を養う

基礎言語能力を養う

1、【受験学習で実務能力を 身につける方法】

- 図Ⅰの底辺にある基礎言語能力を学習段階に沿って確実に養うことは、「日本語の規則性と用法、並びに運用方法」を理解させて身につけることになります。日常生活で、地域社会でのコミュニケーション能力を養いながら、日本人の発話などから言葉(語彙)を数多く体得して学ばせることが大切です。また、日本人の生活習慣や礼儀作法などについても理解させることで、言語表現力を学ばせることが重要です。
- この表現力の理解は、国家試験問題の情景設定問題に対応できる能力となります。「言葉が持つ意味と語感」を理解することにも通じるため、合格後の実務能力を養う基礎力となります。【基礎言語能力と生活言語能力は規則性と用法・運用力を養う】ために、言語能力を養う上で絶対に分断できない重要な要素であることを認識する必要があります。即ち、「基礎言語能力は机上で学ぶ知識であり、生活言語能力はそれを基に生活で言語を運用する力」と捉えるべきです。

2、【国家試験受験能力を確実に養う方法】

- 図Ⅱの9段階に分けられた「言語習得過程」を階段を一段一段上がるように、各学習段階を確実に理解させて身につけさせることが、国家試験受験能力を養う上でとても重要な要素です。

図Ⅱの学習段階表では、各段階の特徴と習得する言語技能の種類を書き記しています。

そして、その段階の合格基準は、日本人の言語能力を学校制度の学年呼称で表していますので、一般の日本人であっても、受験者がどの程度の言語能力があるかを、すぐに判断できます。

さらに、「学習計画表」は、国家試験受験日までの期間を計算して、「学習段階表」をその期間内で終わらせるように作りますので、必然的に国家試験受験能力が、身につけられるようになります。

試しに、本号を読んでいる教育指導者は是非一度、この「学習段階表」を利用して、「学習計画表」を作ってみてください。その経験をすることで、現在の受験者の言語能力レベルが、明確に把握でき、今後の学習指導が有効的に発揮できます。

- 図Ⅲは、人間であれば言葉を使う場合に必要な能力の種類を表したものです。介護士の日本語教育には、ただたんに言葉の暗記や知識を覚えるだけではなく、【言語習得過程に沿った学習が絶対必要】だということが、よくお分かりだと思います。簡潔に説明しますと、

「1の規則性・2の用法」とは、日本語の仕組みとその使い方を学ぶための知識を習得するものです。

「3の運用」とは、規則性と用法の知識を使って、未学習の日本語領域に対して、受験者自らが自学していくための力をいいます。

「4の活用」とは、受験者が習得した日本語力を使い、日本の介護知識などの専門書を読み、さらに知識を深めていく力をいいます。

「5の利用」とは、受験者の生活の場である職場で日本語を使い、生活圏を確立するための力をいいます。

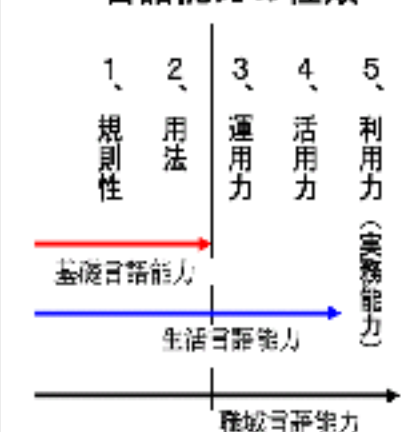
- 以上のように外国人に対して日本語教育を行うことは、特に、介護士などの日本語教育では、職場で日本語を使いながら自分の生活圏を得ていかなければならないために、「正確で、確実な言語能力を養わなければならない」ということが、お分かりになったと思います。

また、国家試験受験能力を養うためには、この専門的な視点が、時間的にも一番の早道です。

しかしながら、上記の視点からはずれて、仮に合格できたとしても、実務能力がないために現場でその苦勞が加わるか、再教育の必要性が出てきますので、効率の悪い方法となります。

よって、読者の皆様の教育方法は、図Ⅲの「言語能力の種類」を参考にして、【国家試験受験能力】を養ってください。

図Ⅲ 言語能力の種類



3、【国家試験合格能力を確実に養う方法】

- 国家試験合格能力は、あくまでも専門領域の試験ですから、受験者のおかれている職場で専門知識を磨いていく必要があります。多くの施設では、過去問題を中心に学習して合格能力を養っていますが、このあり方は基本的に間違った方法だといえます。なぜならば、国家試験問題は過去に出題された問題が繰り返し出題されるわけではなく、常に時代と共に社会の要請に合わせた試験問題が加わるために、過去問題を幾問解こうが、あまり意味のないことだといえるからです。

- では、「合格率を上げるためには、どうしたら良いか」を考えると、一番やり易い方法としては、「専門書並びに、参考書を読み、活きた知識として習得させること」が、遠回りのように思えても、【合格能力】を養う上で一番近道な方法だということです。

そして、日常的に行われている「介護業務の中で、得た知識を実践して体得する方法」が、最も教育効果の上がる方法だともいえます。

声1、来年1月に受験なので、すでに国家試験対策をしている。事業団の模擬試験等は点数がとれるのに職員が指導する上で気になることは、問題を理解しながら読み取れていないのではないかという点だ。月報にも同じ悩みの声を書かれているのを読んだが、うちも同じだ。(神奈川県・M施設)

声2、職員が指導しているので悩みは多い。合格させるにはやはり日本語力の習得の仕方につきまわっている。日本語が出来る人と出来ない人の差も大きく、バラつきがあり、指導する側も苦労している。研修等では皆、同じ時間学習をさせているのに、なぜこのように差が広がってくるのか。施設内では過去に使用した教材等を使いながら同じように反復して指導をしている状態だ。これでいいのだろうか。(青森県・K施設)

声3、延長で学習している受験者がいるが、学習に対する意欲にかけている。職員が日本語の宿題を出して学習させようとしても、自分に厳しく出来ない性格なのかやってきたり、やらなかったりそんな状態が入職当初から続いた。以前、月報では「学習意欲はあっても合格に結びつかない」という施設の声もあったが、「学習意欲もあるのに、なぜ合格に結びつかないのか」ということを考えると、うちと比べるとかわいそうだ。教材は事業団の物を使ったり、日本語教師が使い易い教材を使って学習させているが、一向に教育効果は変わらない。どうしたものか。(大阪府・Y施設)

声4、不合格になった人と合格者が一名ずついる。事業団の教材を使っていたが、教育効果が思うように見られないので見直しも考えている。合格者も構文力が不十分で業務に支障があり、日本語学習も同時に考えないといけないと思っている。(京都府・R施設)

改善策

今回の4施設からの悩みの声の共通点は、「教育効果が上がらない」という点にあります。その原因を挙げれば、まず第一に、受験者の持っている言語能力を施設側がはっきり把握していないことであり、二番目としては、事業団の支給する教材を使った結果、教育効果が見られず、学習意欲を減少している点です。そして、三番目にいえることは、国家試験合格に対する強い合格願望がないことです。その結果、教育に対する計画性や期待感が薄れ、現段階ではすでに、「諦めムードが漂う状態」が生じていることです。

これを打開するためには、はっきりとした受け入れ目的を持つ必要があります。

まず第一に、外国人受け入れの目的は施設の労働力確保。

第二に、日本人と同等の労働力を確保すること。

第三に、日本人職員の過度な労力を使わない体制を作ること。

最後に、受け入れ事業に費やした経費を回収すること。

これらを再認識した上で、国家試験合格に向けての方策を決定する必要があります。全ては【結果主義だから結果を出す】ことが最大の解決方法です。

★★ 解決方法の具体策としては、受験者の意識を明確にするために、弊社の【到達度試験】に参加して客観的な能力査定を受けてみて下さい。【到達度試験】では言語到達度だけでなく、言語技能(10項目)を詳しくデータ化して考察し、受験者に合わせた具体的な解決方法を、毎回提示します。

★★ 約3ヶ月間あれば、間違いなく現在の言語能力を基に具体的な受験能力を養えますので、来年1月に実施される国家試験までには半年間ありますから、十分受験能力を養えるように指導します。

推薦教材

「自学能力を養う」ための有効な教材紹介！！

《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる

【基礎言語能力レベルⅠ】 ③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性とその用法」が学べ、自在に会話力がつくような内容になっています。

※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【漢字のーと(1)】

□
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適です。また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

□
ひらがな文字の習得に最適な教材です。字形や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方に絶対必要な発音方法が学べます。身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べ使える教材です。



【ひらがなカード】

□
表裏にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。イラストには「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【基礎言語能力レベルⅡ】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

□
会社や学校、家庭内など場面における会話を中心に構成され、社会生活に必要な語彙を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。さらに、本テキストを終了すると、「自分の思いや考え」を意志表現できる能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が自学できます。

※ 習得漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字ノート(2)】

□
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文書に対する読解力も、同時に養えるように作られています。漢字の「へん・つくり」の付録もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解させる特徴があります。

【レベルⅠとレベルⅡの違い】

レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。レベルⅡは、会話を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。



【カタカナノート】

□
カタカナ語を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは、説明文と会話が繰り返し読まれて作られています。場面を紹介する文は、外来語の理解と、その言い出し練習をしながら、練習問題によって、読解力と文型の応用力を養えるようになっていきます。

【生活言語能力レベルⅢ】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

□
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、限られた登場人物の日常的な生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

※ 習得漢字数 850字～1,700字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

【レベルⅢの特徴】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベルⅠ	「ひらがなカード」	¥ 1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥ 2,550
	「ひらがなのーと」	¥ 1,800
	「漢字のーと 1」	¥ 1,360
レベルⅡ	「100万人の日本語No.2」	¥ 2,550
	「カタカナノート」	¥ 1,360
	「漢字のーと 2」	¥ 1,360
レベルⅢ	「100万人の日本語No.3」	¥ 3,000
※ 送料は別途		